

デーリー東北
2019年(令和元年)8月21日(水曜日)(2)

青森県出身の土木系人材の県内定着を推進しようとして、県が建設会社などへの学生のインターンシップ事業を展開している。2017年度から実施しており、3年目となる本年度は大学など3校から学生6人が参加。近年、県内の建設業界でも深刻な人手不足が続いており、各企業の仕事内容や魅力をPRすることで、企業と学生のマッチングを図りたい考えだ。

本年度の事業には八戸工業大、八戸高専、室蘭工業大の学生が参加し、八戸市内の建設系企業の3社が受け入れる。

このうち、同市出身で八戸工業大工学部3年の

土木系人材定着へ

県のインターンシップ事業3年目

大学生ら6人、八戸で実習

コサカ技研の担当者の説明を受け、レーザースキャナーの使用方法を確認する鈴木駿介さん(左) 20日、八戸市内



鈴木駿介さん(20)は19日、業を手掛ける「コサカ技研」で実習。20日はレーザーコンサルタント事業「サーベックス」を使った

測量や図面化などの作業を体験し、「企業ならではの新しい技術に触れることができ、就職活動の参考になる」と話した。

企業側もインターンシップの機会を有効活用したい考え。同社の小林信三社長は「建設業界は人手不足が顕著で、若返りが進まないという会社も多い。(人材確保のために)会社訪問の場を生かして、学生へのアピールを積み重ねていくことが重要だ」との認識を示した。

県は来年以降もインターンシップを続ける方針だが、参加人数が想定を大幅に下回る現状にある。県整備企画課の担当者「今後も多くの大学に呼び掛け、参加人数を増やしていきたい」と話している。(福田駿)